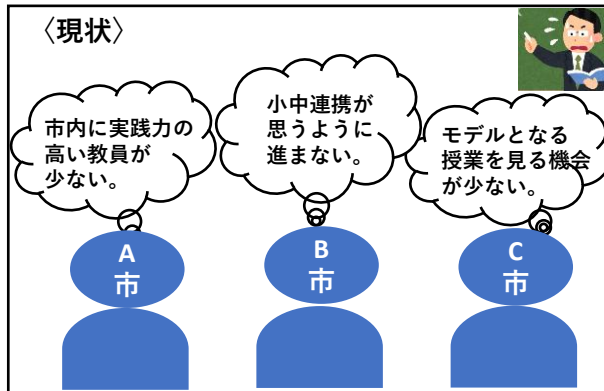


一人ひとりが当事者となる「垣根なき教育実践交流」について

「垣根なき教育実践交流」とは？

外国語指導に関する課題解決を図るために、管内3市及び校種間の垣根を超えて、優れた教育実践を相互に参観できる仕組み。研修の機会の充実により、小中連携が推進され、中1ギャップの解消及び教員の確かな英語指導力育成による児童・生徒の英語力の向上が期待できる。

〈現状〉



〈垣根なき教育実践交流に期待される効果〉

1. 管内3市小中学校外国語教育の質の向上
2. 授業公開（学びの場）の充実による教員間の相互学習機会の創出
3. 指導教諭や専科教員等のミッションの明確化及びパフォーマンスの最大化
4. 外国語部会の活性化による主体的な授業改善
5. 小中間をなだらかにつなぐ指導方法の共通理解

〈垣根なき教育実践交流〉



令和7年度に期待したい取組

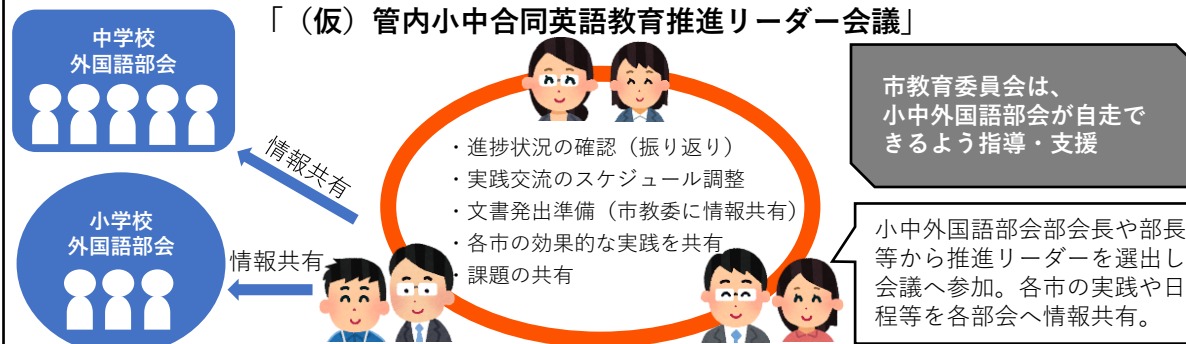
〈垣根なき教育実践交流実施〉

- ① 各市1～3回程度「垣根なき教育実践交流」を実施。
・指導教諭や小学校英語専科教員による授業公開をミッションに設定し、管内へ実践を公開。
- ② 各市小中外国語部会の研究授業を管内へ公開。
- ③ 参観可能人数については、公開校と要相談。



将来的なビジョン（R8～）

「（仮）管内小中合同英語教育推進リーダー会議」



※技能教科を中心に「垣根なき教育実践交流」の範囲を広げ、「学びの場」の充実を図る。

質問事項

回答

- Q1 どのようにスケジュール調整するか
Q2 学校や授業者の負担増加にならないか

- A1 中津教育事務所が中心となり、管内3市教育委員会担当指導主事と日程を調整。
A2 学校の負担は最小限に（公開申込及び当日の受付のみ）。
指導略案の活用や参加人数の制限等により、授業者の心理的・物理的負担を軽減することも考えられる。

- Q3 事後研や参加者事後アンケートは行うか
Q4 交流後の成果や課題をどのように評価・検証し、次年度以降に活かしていくか。

- A3 事後研は、学校や授業者の希望に柔軟に対応。事後アンケートはフォームで実施。
A4 各種学力調査結果を基に、取組の成果を検証。事後アンケートの結果を基に、取組の成果や課題を把握。各市外国語部会で「教育実践交流」における学びを環流。